

長寿医療研究開発費 平成29年度 総括研究報告（総合報告及び年度報告）

長寿医療に関する国際研修プログラム開発とその効果検証に向けた研究（27-3）

主任研究者 遠藤 英俊 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長

#### 研究要旨

##### 3年間全体について

高齢者医療や認知症医療分野において国際共同研究推進、国際協調の促進のため研究成果・グッドプラクティスの集約・共有、ケアや予防を担う人材の教育が喫緊の課題である。本研究は外国人に対する認知症や高齢者医療研修を整備し、国際交流を促進していくことを目的とする。具体的には、①職種・期間に応じた研修プログラムの開発、②テキスト作成、③海外大学・医療機関との連携の促進を内容とする。①に関しては、これまでに研修実績のある医師・看護師・リハ職を対象とし、1週間の研修プログラムを作成する。当初プログラムはプロトタイプとし、逐次検証と改訂を行うこととする。海外連携促進は、アジア地域を中心に、研修受け入れ実績のある機関を中心として、人材交流促進から開始して連携強化を図る。認知症予防・ケア等の分野での国際基準策定等の成果につなげられるよう、相対の関係にとどまらず、国立長寿医療研究センターをハブとする関係を構築し、高齢者医療や認知症の分野で、アジアの要となることを目指した。これらの研修により、その成果をモニタリングし、世界に高齢者医療、認知症医療、老年看護、高齢者介護に関する研修において一定の成果を得た。

##### 平成29年度について

最終年度においては、具体的に研究を前進させた。ロシア高齢者科学クリニックセンターと長寿医療研究センターは2017年8月10日にMOUを締結し、共同研究事業推進の基盤づくりを行った。その成果としては 国家レベルでの事業として、2017年9月にウラジオストックにてMOU交換式を開催した。また2018年3月13日には、モスクワにおいて初の高齢者医療に関する市民公開講座を開催した。この模様は、ロシアの多数のマスコミに盛大にとりあげられた。こうした本研究の成果はタイや台湾にもひろがりを見せ、共同シンポジウムの開催など多彩な交流に発展してきた。

## 主任研究者

遠藤 英俊 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長

## 分担研究者

荒井 秀典 国立長寿医療研究センター 副院長

牧 陽子 国立長寿医療研究センター 研修開発研究室長

研究期間 平成27年4月1日～平成30年3月31日

## A. 研究目的

平成26年11月に日本で開催されたG7認知症サミット後継イベントにおいて、国際共同研究推進、国際協調の促進のため研究成果・グッドプラクティスの集約・共有、ケアや予防を担う人材の教育が今後の課題として確認された。また、認知症の地域包括ケアの文化的感受性(culturally sensitivity)に鑑みて、北米・ヨーロッパの二極に対する一極としてアジアからの発信を積極的に推進していくため、ナショナルセンターである国立長寿医療研究センターがアジアの拠点となるべく国際化を推進していく必要があると考える。本研究の目的は、長寿医療研修センターにおいてアジアを中心とする外国人に対する認知症や高齢者医療研修を整備し、国際交流を促進していくことで貢献することである。それを実現するための、標準的研修プログラムの作成、英文テキストの作成を行うことを目的とする。さらにアジアを中心とする外国人に対する認知症や高齢者医療研修を整備し、国際交流を促進していくことで貢献することである。すなわち国際交流は、国立長寿医療研究センターの中期目標の一つとして位置付けられ、本研究はその要となる。

## B. 研究方法

### 3年間全体について

長寿医療に関する知識経験の国際的均てん化、標準化を目的に様々な研修を立案し、研究対象とする。①職種・期間に応じた研修プログラムの開発、②テキスト作成、③海外大学・医療機関との連携の促進を内容とする。①に関しては、これまでに研修実績のある医師・看護師・リハ職を対象とし、1週間の研修プログラムを作成する。当初プログラムはプロトタイプとし、逐次検証と改訂を行うこととする。さらに、日本における地域包括ケアを具体的に学ぶために、視察・実習も行う計画である。プログラム開発にあたっては、研究期間中に滞在する外国人研修生の協力を得て、研修を受ける側のニーズを踏まえた内容としていく。②のテキスト作成は、すでに日本語で作成されている認知症のテキストの英訳を中心として、進めていく。③の海外連携促進は、アジア地域を中心に、研修受け入れ実績のある機関を中心として、人材交流促進から開始して連携強化を図る。認知症予防・ケア等の分野での国際基準策定等の成果につなげられるよう、相対の関係にとどまらず、国立長寿医療研究セ

ンターをハブとする関係を構築し、高齢者医療や認知症の分野で、アジアの要となることを目指す。

平成 29 年度について

最終年度の目標は、海外研修受け入れのプログラムのたたき台を完成することである。現在海外からの研修は、相手方の日程で決まることが多く、期間もばらばらである。そこで半日コース、1 週間コースを作成し、その都度希望にあわせて変更するタイプのものを作成する。また海外からの国際研修については、実績を積み重ね、将来的に大規模に対応できるシステム構築を目指した。具体的には今後も継続的にタイ、台湾、ロシアとの国際研修の受け入れを行う計画である。

(倫理面への配慮)

3 年間全体について

現時点では患者を対象とした研究ではないため、倫理面への配慮は大きな問題とはならない。しかし研究実施上、今後インタビューなど個人情報扱う必要があれば、当然倫理委員会に申請し、承認の後実施する。匿名化し、倫理的配慮を最大限行うこととする。

## C. 研究結果

3 年間全体について

主な研究事業として、さまざまな国からの留学生、研修生に対して対応可能なプログラムの作成を行った。短期であり、長期であり、日本の高齢者医療の体系や長期介護、認知症対策について、講義、演習、国際交流を行った。海外研修生の受け入れプログラムの作成、受け入れ内規の整備も行った。日本語の認知症研修テキストは改定中であったため、英訳は平成 28 年度に行うこととした。今年度は以下の表 1 にあるような、タイからの長期海外研修生の受け入れを実施した。長期の場合には VISA の取得などさまざまな手続きが必要であった。平成 28 年度は表 2 にあるような、多数の海外研修生の受け入れを実施した。

表 1. 海外研修受け入れ一覧

1	<b>Intalapaporon Somboon</b>	<b>タイ</b>	<b>遠藤主任 研究者</b>	<b>H27.1.19—H27.7.2(6 か月間)</b>
2	<b>Dr.Apirath Phulsawat</b>	<b>タイ</b>	<b>遠藤主任 研究者任 研究者</b>	<b>H28.3.7—H28.3.18(12 日間)</b>

3	Dr.Chung-hao Lin (林宗豪)	台湾	千田医師 (遠藤主任 研究者)	H28.3.1—H28.3.31(30日間)
---	---------------------------	----	-----------------------	------------------------

表 2. 海外研修受け入れ一覧

## 海外研修生/視察受入れ一覧

平成 28 年度

No.	研修・視察目的	日数 等	人 数	国名	所属先	氏名	職種
1	Fellowship Program Traning		1	タイ	Mohidol Universuty	Poungkaew Thitisakulchai	医師
2	高齢総合診療科 研修		1	台湾	China Medical University Hospital	Chang Chin Kai(張欽 凱)	医師
3			1	タイ		Dr.Apirath Phulsawat	医師
4	インドネシア看 護実践能力向 上プロジェクト 老年看護分野 (現場視察)	1	20	インドネ シア	JICA インドネシア		看護 師 ・イン ドネ シア 保健 省
5		5	6	台湾	National Taiwan University Hospital Hsin-Chu Branch	Meng-Kan Chen	医師
						Ho-Hsien Lai	医師
						Hsiu-Yun Lai	医師
						Shu-Li Huang	看護 師

						Yu-Ying Chu	看護師
						Chung-Mei Ouyang	管理栄養士
						Jung-Cheng Yang	理学療法士
6		5	1	台湾	Taipei Veterans General Hospital	Chin-Jen Wan	医師
7		1	約50	タイ	Siriraj Hosp		医師・研究者
8	高齢総合診療科研修	3W	1	台湾	E-DA Hospital、Kaohsiung, Taiwan	Chi Hsien Huang	医師
9	医療技術等国際展開推進事業		11	タイ	タイ保健省	MR.WANCHAI SATTAYAWUTHIPONG	
					Mohidol University	MR.SOMBOON INTALAPAPORN	医師
					Mohidol University	MISS PITIPORN SIRITIPAKORN	
					タイ保健省	MR.PISIT SRIPRASERT	
					Samutsakorn Hospital	MR.THAMMAWIT KUAKULKIAT	
					タイ保健省	MISS PATCHARA SATEANPUCTRA	
						MISS TITIMA WONGVIRIYAWONG	
						MISS CHALOBOL CHALERMSRI	
						MISS NAPAPORN PENGSORN	

						MISS SUTISA PITIYARN	
					Samutsakorn Hospital	MR.THANAPAT PUANGPET	
10	高齢総合診療科 研修	31	1	台湾	Taichung Veterans General Hospital	Ms.Wei-Ling Chen (Sylvia Chen)	医師
11	大阪医科大学 中山国際医学医 療交流センター 留学生 施設見 学	1	5	台湾	国立臺灣大学	Mr. Mao, Yi Ning (毛 奕甯)	医学 部生
				韓国	韓国カソリック大学	Mr. Han, Yang Jun	医学 部生
				韓国	韓国カソリック大学	Mr. Lee, Jung Jun	医学 部生
				シンガ ポール	シンガポール国立大 学	Ms. Han Xin Yi (Celina)	医学 部生
				シンガ ポール	シンガポール国立大 学	Ms. Ruth Yap	医学 部生

#### 平成 29 年度について

最終年度において具体的に研究を前進させた。タイとの交流において、2年間にわたり認知症サポーター養成の導入を働きかけてきたが、遂にマヒドール大学シリラート病院の学長と老年医学教授を中心に、タイ語による認知症サポーター養成テキストが作成された。さらにタイにおける医療・介護ネットワークの構築と介入研究をスタートさせており、本研究の成果が表れてきた。ロシア高齢者科学クリニックセンターと国立長寿医療研究センターは2017年8月10日にMOUを締結し、共同研究事業推進の基盤づくりを行った。その成果としては 国家レベルでの事業として、2017年9月にウラジオストックにてMOU交換式を開催した。また2018年3月13日にはモスクワにおいて初の高齢者医療に関する市民公開講座を開催した。この模様はロシアの多数のマスコミに、盛大にとりあげられた。こうした本研究の成果はタイや台湾にもひろがりを見せ、共同シンポジウムの開催など多彩な交流に発展してきた。海外研修の受け入れについては、昨年と同様実施し、多彩な国からの研修を受け入れた。概ね好評であり、継続的に研修にきているチームも存在する。以下にその成果を示す。

日露医療協力老年医学分野（2018年2月19日）

ロシア人研究者招へいプログラム

1. 2017年2月より交流開始
2. 2017年8月10日 MOUの締結  
国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとロシア高齢者科学クリニックセンター
3. ロシアの高齢化問題  
寿命の延長  
近い将来ロシアでも高齢化が問題となる（医療・介護・年金等）  
都市部と地方の格差の拡大
4. 共同活動  
相互訪問  
2018年2月18日より、23日まで日本招へい事業  
2018年3月13日 モスクワでの市民公開講座の開催  
国際共同研究  
Web communication システムの構築

厚労省訪問参加者名簿

1. Professor Olga Tkacheva  
- Director of the Russian Clinical and Research Center of Gerontology,  
Pirogov's Russian National Research Medical University.
2. Professor Yulia Kotovskaya  
- Deputy Director of the Russian Clinical and Research Center of Gerontology,  
Pirogov's Russian National Research Medical University.  
Address (for both of us): 16, 1st Leonova street, Moscow, 129226, Russia
3. Elmira Vergazova ,  
Deputy Director of the Department of Medical Service Organization and  
Resort Service of the Ministry of Healthcare of the Russian Federation.  
She is in charge for geriatric medicine in the Russian Ministry of Health.

表3 海外研修者 研修プログラムパターン

海外研修者 研修プログラム案

	3月7日 MON	3月8日 Tue	3月9日 Wen	3月10日 Thur	3月11日 Fri
8:30		Cof	Cof	Cof	Cof
9:00	9:00-10:30	Dementia Cof	もの忘れ外来	Dr.Arai	認知症リハ・ケア 解説 (牧@牧居室 ext 7753)
10:00	Orientation (牧@牧居室 ext 7753)	Dr. Endo	遠藤先生	在宅医療	
	10:30-12:00	10:00-11:30 Geriatrics Lecture	外来見学	DST ラウンド	中5病棟
11:00	Out-patient		認知症リハビリテー ション 機能回復部 大沢 先生		見学
12:00	Runch	昼食	昼食	12:00-14:30 糖尿病教室	昼食
13:00	13:30-14:30		13:00-15:00	もの忘れカンファ	講義 60分(深田 先生) 高齢がん患者の 医療
14:00	Dr.Satake In-patient	認知症リハ・ケ ア解説 (牧@牧居室 ext 7753)	韓国の高齢者医療 Prof. Kim @第二研究棟2階 会議室	谷川医師・サブレ 看護師	@深田医師居室
15:00			NST 回診	講義 60分(遠藤 先生) 遠藤医師/認知症 施策全般	EOL カンファレン ス @EOL 室
16:00				@家族教室	



17:00				
-------	--	--	--	--

17:30

Demntia Conf

Geriatric Cof

表 4 平成 29 年度海外研修生一覧

年次	日数等	人数	国名	所属先	職種
H29.4.4 H29.4.4	1	10	マレーシア	JAICA 九州国際センター/ 国立病院機構熊本医療センター	
H29.5.8 H29.5.8	1	2	台湾	国立臺灣大学	医学部生
					医学部生
H29.7.3 H29.7.3	1	3	韓国	ソウル国立大学	医学部生
					医学部生
					医学部生
	1	4	アメリカ	ハワイ大学(JABSOM)	医学部生
					医学部生
					医学部生
					医学部生
1	1	ロシア	アムール医科アカデミー	医学部生	
H29.10.2 H29.11.3	34	1	台湾	不明	不明

H29.10.1 8	H29.10.1 8	1	1	韓国	日韓交流支援センター Korea Productivity Center; Instructional Designer, Customized Education Development	
		1	18	韓国	Korea Productivity Center; Public Sector Education Center	
H29.12.6	H29.12.6	1	35	韓国	開南大学 健康産業管理系 運輸科技興管理学系 商学院 企業興創業感理学系所 人文社会学院	主任教授 教授 教務長 院長/教授 院長
H30.3.12	H30.3.12	1	2	韓国	韓国カソリック大学	医学部生
						医学部生
H30.3.20	H30.3.20	1	14	マレーシア	JAICA 九州国際センター/ 国立病院機構熊本医療センター	
H30.3.26	H30.3.26	1	2	台湾	国立台湾大学	医学部生
						医学部生
		1	2	シンガポール	シンガポール国立大学	医学部生
						医学部生

## D. 考察と結論

### 3年間全体について

海外研修生に資する人材育成を行った。プログラムの改良は今後とも必要であるが、一定の成果があり、実際の活動につなげることで、海外研修の受け入れ体制の整備を行った。タイと台湾を中心に研修生の受け入れを行った。またマレーシアの研修は、リハビリテーション職等の多職種も参加しており、今後のさらなる関係の発展や、留学受け入れの希望もあり、多大な成果を得たといえる。結論としては、特にアジア地域の高齢化は最大の問題であり、今後医療や介護職の視察、研修が急増するものと思われる、当研修センターとして今後さまざまなメニューの作成を行い、テキストの英文化や、現地の言語化が必要であることが強く求められており、その分野への研究事業を展開する必要がある。

### 平成 29 年度について

長寿医療に関する国際研修プログラム開発とその効果検証に向けた研究の最終年度において、研修生の受け入れは例年通り順調であった。一日視察・見学が多い傾向があったが、比較的長期の受け入れもあった。ロシアからも 3 名の研究者と行政関係者の視察を受け入れた。昨年来の課題であった、講師の確保はいぜん課題ではあるが、海外研修プログラムの 1 週間（表 3）、4 週間プログラムのマスタープランは完成し、研修や視察の目的にあわせて、プログラムの調整を行った。さらに認知症テキストの英文化、健康長寿ハンドブックのロシア語化など研究の進展があった。

## E. 健康危険情報

該当せず

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

平成 27 年度

- 1) Aya Seike, Takashi Sakurai, Chieko Sumigaki, Akinori Takeda, Hidetoshi Endo, Kenji Toba: Verification of the Educational Support Intervention for Family Caregivers of Persons with Dementia, Journal of the American Geriatrics Society, 2016.3
- 2) Fumihiko MIZOKAMI, Yoshiko TAKAHASHI, Keiko HASEGAWA, Hideyuki HATTORI, Keiji NISHIHARA, Hidetoshi ENDO, Katsunori FURUTA, Zenzo ISOGAI  
Pressure ulcers induced by drug administration: A new concept and report of four cases in elderly patients, Journal of Dermatology 2016;43:436-438
- 3) 遠藤英俊、佐竹昭介、平野優:患者の立場に立った BPSD 対応法 老年精神医学雑

誌:第26巻第11号,2015.11別刷

- 4) 遠藤英俊:認知症の予防 内科医からみた認知症予防:日精診ジャーナル 42巻1号,31-38,2016.1

平成28年度

- 1) 遠藤英俊:認知症の予防 認知症予防の最前線:日精診ジャーナル 43巻1号,3444,2017.2
- 2) 遠藤英俊:内科医からみる認知症と地域包括ケア:日本社会精神医学会雑誌、第26巻、第1号,78-81,2017.2

平成29年度

- 1) Akinori Nakamura,Pablo Cuesta,Alberto Fernandez,Yutaka Arahata,Kaori Iwata,Izumi Kuratsubo,Masahiko Bndo,Hideyuki Hattori,Takashi Sakurai,Koji Fukuda,Yukihiko Washimi,Hidetoshi Endo,Akinori Takeda,Kersten Diers,Ricardo Bajo,Fernando Maestu,Kengo Ito,and Takashi Kato: Electromagnetic signatures of the preclinical and prodromal stages of Alzheimer's disease BRAIN A JOURNAL OF NEUROLOGY, 1-16,2018.3

## 2. 学会発表

平成27年度

- 1) 遠藤英俊、佐竹昭介、鳥羽研二:基礎疾患の異なる個々の患者に最適な具体的支援策とは、第29回日本医学会総会、2015年4月11日(土)、京都
- 2) 加藤昇平、遠藤英俊、永田理紗子、佐久間拓人:認知課題遂行時脳血流のMCIサブタイプ比較分析、第54回日本生体医工学会大会、2015年5月7-8日、名古屋市熱田区。
- 3) 遠藤英俊:「総合評価加算について(オリエンテーション)」  
第57回日本老年医学会 高齢者医療研修会 座学、2015.6.12(金)横浜
- 4) 遠藤英俊:「高齢者在宅医療」  
第57回日本老年医学会 高齢者医療研修会 座学、2015.6.12(金)横浜
- 5) 遠藤英俊:「認知症の薬物治療～包括的医療の今後の展望を踏まえて～」  
第57回日本老年医学会 セミナー、2015.6.13(土)横浜
- 6) 遠藤英俊:「高齢者総合機能評価 計画の作成」  
第57回日本老年医学会 高齢者医療研修会 ワークショップ、2015.6.14(日)横浜
- 7) 遠藤英俊:「認知症ケア最前線—予防、治療と対応法—」  
第14回日本ケアマネジメント学会 モーニングセミナー、2015.6.14(日)横浜
- 8) 溝神文博、服部英幸、西原恵司、遠藤英俊、古田勝経、磯貝善蔵:薬物誘発性褥瘡～高齢者における新たな薬物有害事象～第57回日本老年医学会 一般演題 口述発表 O-78, 2015.6.14(日)横浜
- 9) 千田一嘉、佐竹昭介、西川満則、徳田治彦、三浦久幸、遠藤英俊:CPAP外来における

高齢睡眠時無呼吸症候群患者の大府研究基準を用いたフレイルの評価

第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表P-43, 2015.6.13(土)横浜

- 10) 遠藤英俊、佐竹昭介、三浦久幸、西川満則、高梨早苗、平野優:終末期医療に関する医学・看護教育の現状に関する研究  
第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表P-77, 2015.6.13(土)横浜
- 11) 佐竹昭介、千田一嘉、洪 英在、三浦久幸、遠藤英俊、近藤和泉:基本チェックリスト総合点による健康障害発生の予測、第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表P-119, 2015.6.14(日)横浜
- 12) 加藤昇平、遠藤英俊、永田理紗子、佐久間拓人:認知課題遂行時脳血流のMCIサブタイプ比較分析, 第54回日本生体医工学会大会, 2015.5.7(木)-9(土)
- 13) 清家 理、櫻井 孝、住垣千恵子、武田章敬、福田耕嗣、遠藤英俊、鳥羽研二:「介護者の介護負担軽減へのアプローチ 一 段階的教育支援プログラム開発研究より -」第34回日本認知症学会学術集会, 2015.10.4(日)青森
- 14) 遠藤英俊:新しい高齢者医療とケア~認知症と終末期看護を中心に~  
第18回日本腎不全看護学会学術集会 特別講演2, 2015.11.15(日)名古屋
- 15) 遠藤英俊:内科医からみる認知症と地域包括ケアシステム  
第35回日本社会精神医学会 シンポジウム5, 2016.1.29(金)岡山
- 16) 遠藤英俊:生活習慣病に対する人工炭酸泉の効果  
第17回日本健康支援学会 2016.2.28(日)名古屋

平成28年度

- 1) 遠藤英俊:第17回日本認知症ケア学会大会 座長「認知症予防」2016年6月5日(日), 神戸
- 2) 大野久美子, 市橋芳則, 小島恵美, 遠藤英俊, 来島修志(北名古屋市回想法センター, 北名古屋市歴史民俗資料館, 北名古屋市役所, 国立長寿医療研究センター, 日本福祉大学)第17回日本認知症ケア学会, ポスター発表 G「回想法リーダー養成講座の実施と効果について」, 2016年6月5日(日), 神戸
- 3) 遠藤英俊、西川満則、高梨早苗:第21回日本緩和医療学会学術大会, シンポジウム36 終末期の倫理的問題を考える, 2016年6月18日(土)京都
- 4) 西原恵司, 佐竹昭介, 山田洋介, 川嶋修司, 遠藤英俊, 荒井秀典, 藤城健, 北川雄一, 川端康次, 深田伸二:「手術治療を受ける高齢者に対する, 基本チェックリスト(KCL)の有用性:術後経過・予後の予測可能性の検証」, 第58回日本老年医学会, 2016.6.7(火)金沢
- 5) 清家理, 櫻井孝, 藤城あかり, 住垣千恵子, 福田耕嗣, 武田章敬, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 鳥羽研二:「ケアラーの介護ストレスに対するセルフコーピング手法の効果検証」第58回日本老年医学会, 2016.6.7(火)金沢
- 6) 千田一嘉, 佐竹昭介, 西川満則, 徳田治彦, 三浦久幸, 遠藤英俊:「高齢閉塞性睡眠

時無呼吸症候群患者の CPAP 外来における基本チェックリストを用いたフレイル評価に基づく包括ケアによるアドヒアランス向上」, 第 58 回日本老年医学会, 2016.6.7(火) 金沢

- 7) 千田一嘉, 佐竹昭介, 西川満則, 徳田治彦, 近藤和泉, 三浦久幸, 遠藤英俊: 「高齢 COPD 患者の呼吸リハビリテーション外来における基本チェックリストによるフレイル評価を活用した包括ケア」, 第 58 回日本老年医学会, 2016.6.8(水) 金沢
- 8) 櫻井孝, 武田章敬, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 服部英幸, 鳥羽研二, 住垣千恵子, 富田雄一郎, 佐々木千恵子, 清家理: 「診断直後の認知症をもつ人および家族への教育的支援プログラム」, 第 58 回日本老年医学会, 2016.6.8(水) 金沢
- 9) 遠藤英俊: 第 58 回日本老年医学会 高齢者医療研修会 「高齢者在宅医療」, 2016.6.10(金) 金沢
- 10) 遠藤英俊: 第 58 回日本老年医学会 市民公開講座 「認知症予防最前線」, 2016.6.10(金) 金沢
- 11) 遠藤英俊: 日本ケアマネジメント学会 第 15 回研究大会 in 北九州 座長「認知症ケア 1」2016 年 6 月 19 日 (日), 北九州
- 12) 遠藤英俊: 第 13 回日本高齢者虐待防止学会 市民公開講座 「高齢者虐待と認知症」, 2016.7.15(金), 横浜
- 13) 遠藤英俊: 第 35 回日本認知症学会学術集会 座長「実臨床の AD ; 治療には何が一番役立つか?」, 2016.12.1 (木), 東京

平成 29 年度

- 1) 遠藤英俊: 第 18 回日本認知症ケア学会大会 教育・研修分科会 座長, 2017 年 5 月 26 日(金), 沖縄
- 2) 小島恵美, 市橋芳則, 大野久美子, 遠藤英俊: 認知症予防「回想法の地域展開の現状と課題の分析」ポスター発表 第 18 回日本認知症ケア学会大会, 2017 年 5 月 27 日(土), 沖縄
- 3) 遠藤英俊: 第 30 回日本老年学会総会 合同シンポジウム 2 座長「認知症の人と家族を支える医療とケア」, 2017 年 6 月 14 日(水), 名古屋
- 4) 遠藤英俊: 第 16 回日本老年学会総ケアマネジメント学会研究大会 大会長講演, 2017 年 6 月 15 日(木), 名古屋
- 5) 遠藤英俊: 第 16 回日本老年学会総ケアマネジメント学会研究大会 教育講演「地域包括ケアシステムの深化・拡大と介護保険法等改正—ケアマネージャーにとって好機か? 危機か?」座長, 2017 年 6 月 16 日(金), 名古屋
- 6) 遠藤英俊: 第 16 回日本老年学会総ケアマネジメント学会研究大会 市民公開講座 「認知症徘徊による列車事故から学ぶこと」座長, 2017 年 6 月 16 日(金), 名古屋
- 7) 遠藤英俊  
第 14 回日本高齢者虐待防止学会 基調講演 座長「113 通報システムについて」, 2017 年

7月15日(土), 松戸

- 8) 遠藤英俊: NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第23回全国の集い in はちのへ2017 シンポジウム「認知症施策と教育システム」講演, 2017年10月9日(月), 八戸市
- 9) 遠藤英俊: 第71回国立病院総合医学会 シンポジウム「虐待」領域「病院職員として高齢者虐待にどう向き合うか?」講演, 2017年11月11日(土), 高松市
- 10) 遠藤英俊: 第17回日本訪問歯科医学会 シンポジウム「訪問歯科診療におけるオーラルフレイルの対応」講演, 2017年11月12日(日), 東京
- 11) 遠藤英俊: 第17回東海北陸作業療法学会「認知症と作業療法士」講演、2017年11月19日、名古屋市
- 12) Seike.A, Sumigaki.C, Fujisaki.A, Takeuchi.S, Okubo.N, Mizuno.N, Takeda.A, Endo.H, Toba.K, and Sakurai.T : Social Work Assessment Method Promotes Stress Management of Family Caregivers of People with Dementia, International Conference of Association for Gerontology in Higher, 2018.3.2, Atlanta, USA

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
3年間なし
2. 実用新案登録  
3年間なし
3. その他  
3年間なし